

福祉教育常任委員会閉会中の調査について

福祉教育常任委員会委員長 副田悦子

(1) 日時 令和6年11月15日13時30分～14時50分

(2) 場所 東庁舎4階第2委員会室

(3) 案件

① (仮称) 湖南省子ども計画策定に係る進捗状況について

Q: SNSに居場所を求める人が多いのは市内にないという表れではないか。

A: 居場所は重要な施策として捉えているので多面的に図書館のリニューアルも含め、計画の中に展開していきたい。また、子どもだけではなく市民がつながる居場所づくりをめざすのは市の施策である小規模多機能自治にも通ずると考える。

Q: ワークショップなどに集まった人数が少ないのでは。

A: まちづくりセンターや学童保育所に周知したが公募に応じた人数は少なかった。また、特に若者については声がけをする機会に乏しい。策定の段階で子どもの意見を聴くことが十分ではなかった。これから施策を展開する上で、当事者の方に話を聞くことや手法など工夫していきたい。

Q: 市として居場所の捉えは。

A: 夏休みの就学児童だけでなく、地域で展開していただくような形に、また支援が必要な子につなげていける体制を構築していきたい。

☆他にも、支援の薄くなる若者・貧困の問題については項を立てて位置付けすることで政策が動きやすくなるのでは、との意見が出た。

② 第3次健康こなん21計画策定に係る進捗状況について

Q: 循環器系の死亡率が県と比較しても多い湖南省として対策は。

Q: 市民のやろうとする気持ちを促す策は。

A: 県のアプリもあるが、今年度独自で「健康づくりモデル習慣化事業」を実施している。計画の目標に添えるような行動変容を促せるようなことを考えていきたい。また、高齢者の方には、100歳体操やシルバーの総会などのいろいろな場面で機会を捉え、資料を持参したりお話をさせてもらったりしている。

Q: 保健師さんの日記はオリジナルストーリーとあるが。

A: 保健師たちにグループワークで担当地域ごとの素材(人・物・出来事)と課題から、実際にできたらいいなと思う活動をまとめた。日記風なので、市民の目線で保健師の日々の活動を知ってもらい計画のめざすところを伝えていければいいと思う。また、健康こなん21計画を目にされないような方にも活用して啓発につなげたい。

③ 議会報告会集約事項の取り扱いについて

今回議会報告会からチャレンジシステムに則り、委員長会議を経て所管の委員会で議論し、本会議で委員長報告を行った。このことについては、議会だよりもに掲載され、ホームページからも閲覧できる。ただ、意見をあげた中学生にしっかり届いているのか懸念されるところでもある。中学生の意見を聴き、その案件に議会として執行部としてしっかり議論したことを返すことで、中学生が自分たちの意見が市政につながった実感が持てるのではないかと考える。

よって委員長報告の結果を議会として中学校に確実に伝えていくことを提案する。